

デンタルダイヤモンド／2014. 10月号

○実践歯科ライブラリー：コンポジットレジン修復—保険の限界と自費の可能性 (宮崎真至・秋本尚武・田代浩史・天川由美子)

* 予知性の高いコンポジットレジン (CR) 修復を行うためには丁寧な感染歯質の除去・防湿・マトリックスの使用そして高い技術が必要であるが、保険ではそれが反映されないことが問題であること。コンポジットレジン修復は r d x 導入時に比べ、物性、接着性、審美性の向上で適応症は増えたが、その反面平均治療時間は延長している。しかし、保険診療報酬は 25 年前より下がっていることを提示。保険治療としての CR 修復と自費治療の可能性を解説。さらに、いかにコンポジットレジン修復は歯の削除量を最小に抑えて審美的修復が可能かをアピールして自費治療を行っていくか、そのポイントやテクニックを示している。

○Rinsho. Com：第二次成長開始時の下顎前突治療に有効なアンテリアコントロールアーチ (花田真也)

* 下顎前突の要因には、①機能性、②歯性、③骨格性、④複合性の 4 つがありますが、年齢を増すごとに、要因が増えていきます。下顎を過成長させないためには、①舌機能の正常化、②正しい前歯被害の確保が重要です。舌の正常化のための「ガムを用いた舌トレーニング」とユーティリティアーチを改良したアンテリアコントロールアーチと GUMMETAL ワイヤを用いて、スピーディーな被害の改善方法を紹介しています。矯正に興味のある先生には面白い内容だと思います。

歯界展望／2014. 10月号

○特集／天然歯の形態を考慮した補綴臨床 1 (桑田正博 大村祐進)

* 今回は対談形式で、補綴物と歯肉の調和を考えるというテーマである。大村先生は、県歯学術部でも講演頂き、多くの症例を見せていただいた。その症例のきれいさは、記憶に新しい。また桑田先生は、言うまでもなく審美補綴で、日本の技工士の先駆的存在である。今回多くの臨床写真を提示してお二人の対談は、支台歯形成からプロビジョナル、圧排、印象など参考となることが多い。

○特別企画／酸蝕症とブラッシング—食後 30 分間、ブラッシングを避けることの是非—

* マスコミにより、「ブラッシングは、食後 30 分はしたらいけない。」というような報道がされて、国民、歯科医師ともに戸惑いを覚えた。これは「酸性飲食物を摂取した後は、」という一文をカットして報道されたことが原因らしい。今回の企画は、40 ページをさいて歯科保存学会や、小児歯科学会等でのシンポジウムの結果をそれぞれの立場から考察している。きっと先生方の問題解決のお役に立つと思われる。

ザ・クインテッセンス／2014. 10月号

○社会から問われる医療安全 10 スタンダードプリコーション感染対策は万全ですか？

(水野智仁 中岡美由紀 仁井谷善恵 栗原英見 広島大学)

* スタンダードプリコーション (standard precaution) とは、1985 年に CDC (米国疾病管理予防センター) が提唱したもので、患者と医療従事者を院内の交差感染の危険から守るために実施される“標準感染予防策”のことである。感染症の有無を問わず、すべての患者の、汗を除く分泌液 (血液・体液)、粘膜、傷のある皮膚などを感染の危険を有するものとして対応する。1985 年の院内感染予防の基本的な概念であるユニバーサルプリコーションと 1987 年の生体物質隔離に対する考え方を統合した医療における感染対策として最も重要な対策である。筆者らは遵守するための注意すべき 5 か条として①目的を理解している②指針を定めている③定期的に教育を受けている④環境を整えている⑤評価体制がある。を挙げている。また、HBs 抗体の確実な獲得にワクチンは 3 回接種としている。

日本歯科評論／2014. 10月号

○特集／2025 年問題に取り残される「食べる」を最期まで支える在宅歯科診療

—これなら誰でも始められる！ ケース別 実践のポイント (横山雄士 栗屋 剛 他)

* 在宅歯科診療してますか？ 今から 11 年後の 2025 年後期高齢者は現在より 500 万人増加すると言われています。当然歯科治療も在宅でという要望が増えてくるでしょう。その時のため我々歯科医師はどのような準備が必要か、今から考えておく必要があります。在宅歯科診療をはじめたいがどうやったらいいかわからないという先生方も多いと思います。この特集はまだ在宅歯科診療を始めるにあたってどう対応するか、ケースごとにいていないに答えています。在宅歯科診療をしようと迷っている方は是非特集を読んで始めましょう。

○1 つ上を目指す歯内療法へのアプローチ (IV) —抜髄 (Initial Treatment) 【臨床編】

4. 抜髄処置に対する薬剤による疼痛抑制 (長谷川誠実)

* 抜髄処置の後痛みがでたら鎮痛剤を処方する、日ごろ何気なく行っている方がほとんどだと思います。しかし鎮痛薬の作用機序や副作用など知ったうえで使うとより効果的に使うことができます。この論文は鎮痛薬についていろいろな観点から詳しく述べています。この機会に鎮痛薬についてしっかり理解することをお勧めします。